

週刊 タバコの正体

第6話

タバコに手を出してしまうと、ほとんどの人がニコチン依存症になってしまいます。すると、まるで魔法にでもかけられたかのように、毎日毎日、来る日も来る日も、体調がすぐれなくても、どんなに忙しくても、必ず何本ものタバコの煙を吸い込み始めるのです。

そうして、「こんな生活はまずい、タバコをやめたい」と思いはじめた頃には、心身ともに完全にタバコに縛られてしまっているのです。口からは「やめたい」という言葉は出ても、タバコの煙に手も足も縛られているようなものなので、逃げだすことが難しくなっています。

逃げ出せないまま、タバコを買い続け吸い続けると、皆さんも知ってのとおり病魔に襲われ、最終的には命を縮めることになってしまい、本当にかわいそうです。タバコの事をちゃんと知っている人は、こんなふうに“かわいそう”だと感じるだろうと思います。

ところが、タバコの本当の怖さを正しく知っている人は少ないので、親しい人がタバコから逃げられない状況でも、「本人が好きで吸ってるんやから」として、“かわいそう”だなんて感じる人は少ないでしょう。

さて話は変わりますが、タバコを吸い始めてニコチン依存になってしまうのと、覚醒剤に手を出して薬物依存になる経緯は、非常に良く似ています。どちらも、本人たちの気持ちが不安定な時期に、「気分が落ち着く」かのようなイメージに惑わされて、案外簡単に始めてしまいます。君たちのような思春期は、気持ちの不安定な時期でもありますから、この状況に陥る危険が高いのです。

とは言っても「覚醒剤なんて、聞くだけでも怖い」とか「覚醒剤なんか、見たことない」というのが正直なところでしょう。それもそのはず、覚醒剤(つまり麻薬)の取り扱いは法律で厳しく規制されています。それほど危険な薬物なのです。

では、タバコはどうでしょうか。規制どころか広告付きの自動販売機で24時間いつでも、日本のどこでも、売られています。ということは、まったく危険なものではないと言う事なのではないでしょうか。

そんな事はないですね。タバコは麻薬に比べ健康被害の症状が現れるまでの時間が、非常にゆっくりなので怖さをほとんど感じませんが、最終的には命を奪う事態となることには変わりありません。

“かわいそう”な依存症の人を増やす事になるのに、どうして「いつでもどこでも買える」のでしょうか。

産業デザイン科 奥田 恭久